

愛知県知立市 一高齢者一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな支援

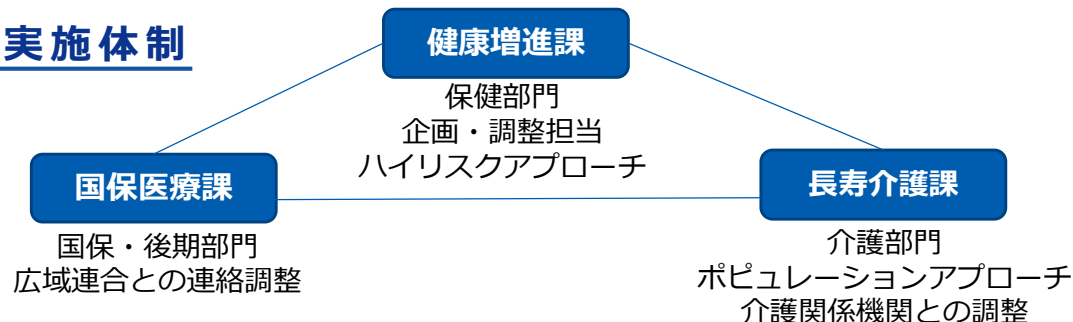
市の概況（令和6年4月1日時点）

人口	72,302人
高齢化率	20.5%
後期被保険者数	8,372人
日常生活圏域数	3圏域

取組の経緯

- 市民の健康増進及び介護予防の取組については各担当課で取り組んでいたが、高齢者の心身の多様な課題に対し、きめ細やかな支援を実施するため、令和元年度から庁内関係課と協議を開始し、令和3年度から一体的実施事業を開始した。
- 令和3年度は、健康課題からハイリスクアプローチで低栄養予防、ポピュレーションアプローチでフレイル予防を実施。令和5年度から、ハイリスクアプローチに糖尿病性腎症重症化予防、口腔機能低下予防を追加し実施している。
- 効果を出すため、既存事業の延長線上で事業を実施するのではなく、一体的実施のために一から新規で事業を立ち上げた。

実施体制



知立市マスコットキャラクター ちりゅっぴ

企画調整・関係機関との連携

- 庁内連携
庁内3課（健康増進課、国保医療課、長寿介護課）にて、庁内連携会議を年3回、庁内連携担当者会議を年2～3回実施し、医療費の現状や健康課題の共有、事業の進捗確認や実施方法の検討を行う。その他、地域のアウトリーチ医療専門職と専従保健師にて、事例検討、様式や媒体、支援方法等についての打ち合わせを随時実施。
- 医療関係団体等との連携
〈医師会〉
事業周知および実績報告、事業への助言
糖尿病性腎症等重症化予防事業検討委員会への参加（年2回）
〈歯科医師会〉
事業周知および実績報告、事業への助言
〈地域包括支援センター〉
事業周知、個別支援における連携
〈その他〉
通いの場での体力測定、健康教育、運動指導の一部を委託し実施している。

ハイリスクアプローチ

- 糖尿病性腎症重症化予防
・後期高齢者健診において、下記①及び②に当てはまり、糖尿病のレセプトが確認できない者。
・下記①及び②に当てはまり、かかりつけ医からの推薦があった者。
①空腹時血糖またはHbA1cの基準値外該当者（※R5年度の基準値は知立市にて設定）
②eGFR45未満、eGFR60未満のうち年間5以上低下、尿蛋白±以上、血圧150/90mmHg以上のいずれかに該当
 - 低栄養予防
・後期高齢者健診において、BMI14～19かつ質問票6に該当した者
 - 口腔機能低下予防
・後期高齢者健診において、質問票4、5、6全てに該当し、かつ過去1年以内に歯科のレセプトがない者。
・歯科健康診査の口腔機能評価で機能低下が認められ、かかりつけ歯科医における未指導者。
- ※上記対象者1人につき医療専門職による訪問を5回（6か月間）実施。信頼関係づくりにより重きをおき、個人の生活背景に寄り添ったプランを立案し支援している。プラン作成時、最終訪問前にカンファレンスを実施したり、個別の課題に応じた資料や対象者の理解力に合わせた媒体を作成し指導に活用している。また、介入率を上げる工夫として、対象者への事業案内文に訪問する専門職の写真や事業の利用率、満足度等を載せている。

ポピュレーションアプローチ

- 健康教育・健康相談
通いの場において、医療専門職がフレイルに関する健康教育を4回/年実施。1回目、4回目の健康教育時に健康相談を行い、後期高齢者の質問票及びフレイルに関する意識調査を実施。健康相談の内容から、フレイルの状況を把握し、適切なサービスへ接続している。



- ①おあんまき あまておいしい アイウエオ
- ②かきつばた みめうるわしき カキクケコ
- ③しょかかおる ちりゅうまつりだ サシスセソ
- ④はなしょうぶ ちりゅうじんじゃハ シャシュショ
- ⑤ちりゅうしは かがやくまちです タチツテト
- ⑥だし ぶんらく からくりにぎわう ダチツデト
- ⑦ニコニコと ちりゅっぴわらうよ ナニヌネノ
- ⑧へんじょういん いちばんふだしハ ハビフヘホ
- ⑨ハッピー ちりゅっぴ バビブベボ
- ⑩ぶくぶくぶく うがいですっきり バビブベボ
- ⑪まつなみき うまいちにぎわう マミムメモ
- ⑫やととかめ こうみんかんで ヤユユエヨ
- ⑬わがまち だいすき ワ オン
- ⑭げんきに わらってわらって ワッハーハー

健康教育で使用する
「知立元気ことば」→

愛知県知立市

事業結果と評価概要（令和5年度結果）

		対象者数	参加者数	評価指標	状況（評価結果）
ハイリスクアプローチ	糖尿病性腎症重症化予防	8人	6人	・介入前後のHbA1cの変化 ・介入前後のeGER(腎臓病期)の変化 ・行動変容 ・介入後の医療受診	・HbA1c 改善・維持 66.7% ・eGER(腎臓病期) 改善・維持 66.7% ・行動変容あり 75% ・介入後の医療受診 66.7%
	低栄養予防	70人	59人	・介入前後の体重、握力の変化 ・介入前後のアルブミンの値 ・行動変容	・体重増加 62.5%、握力増加 75% ・アルブミン改善 85.7% ・行動変容あり 93.5%
	口腔機能低下予防	12人	8人	・介入前後のむせ、飲み込みの変化 ・行動変容 ・介入後の医療受診	・むせ、飲み込み 改善60% ・行動変容あり 100% ・介入後の医療受診 50%
ポピュレーションアプローチ	健康教育・健康相談 フレイル状態の把握	－	169人	・介入前後の質問票の変化 ・介入前後のフレイルの認知度 ・行動変容	・質問票 1項目以上改善 77.8% ・フレイル認知度 14.8%→66.7% ・行動変容あり 48.1%
	周知・啓発	－	－	チラシ配布数	・チラシ配布 10,445枚 チラシ配布の他、広報、ホームページ、ミニバス内への掲示等でフレイルの周知啓発を実施。

ハイリスクアプローチ低栄養予防事業の介入効果についての検証

令和3年度低栄養予防対象者を事業参加者【36人】、事業未参加者(拒否・中断)【27人】に分け、令和5年度の1人あたり年間外来医療費、入院医療費、介護給付費を比較した。事業参加者は、外来医療費が高い傾向が見られるが、適切な栄養摂取・運動による介護予防の効果に加え、早期治療による疾患の重症化予防にもつながり、入院医療費・介護給付費の抑制効果がみられた。



課題・今後の展望

- ・ハイリスクアプローチは、対象者との信頼関係を築くことに重きをおいて支援することにより、問題を自分事として捉えさせて、行動変容につなげている。
- ・ポピュレーションアプローチは、通いの場に参加している比較的健康意識の高い人を対象として実施しているため、健康無関心層への働きかけが十分ではない。健康無関心層に対し、必要な情報を届け健康意識を喚起できるような取組を検討していく。
- ・後期高齢者は複数の疾患の合併や、身体機能及び認知機能が低下している方が多く、後期高齢期の支援だけでは健康課題を解決することが難しい。その前の段階から支援できるよう関係課と課題を共有し、必要な対策について検討していきたい。
- ・令和7年度健康状態不明者対策の実施により、ハイリスク者を漏れなく把握し、必要な支援へ接続していく。